



12月8日 太平洋戦争開戦日によせて

68年前の12月8日、久しく思い出したことの無い、というより思い出したくない日です。「よくもこれほどダマシてくれたな」との怨みと、「完璧な洗脳とはこうゆうのか」の自嘲とがない交ぜになっています。出勤途上の街角から「西太平洋において戦闘状態に入れり」とラジオ放送が軍艦マーチと共に聞こえていました。ソウ、アノ戦後のパチンコ屋の音楽です。1941年3月旧制中学校を卒業して選んだ職場は、陸軍造兵廠でした。兵器を作る工場です。イケイケドンドンの風潮はパチンコ屋の雰囲気でしょうか。中学校の地理の先生が、授業中の脱線ばなしに「物事は両面からみるとよくわかる。僕は短波放送で海外ニュースを聞けるから裏も表もわかって面白い」言うのを聞いて、アレこの先生はスパイかなと思ったりしましたが、でもその先生は別の時は「自由と平等は縦軸と横軸、両方一緒に得られる筈がない」ともいいました。最近聞いたところでは、天皇ヒロヒトも短波放送の愛聴者だったそうです。

小学校2年の時「わすれるな9月1日」と云うポスターをクラス全員がかかされました。関東軍閥の頭目を爆殺しようとした事件を皇国に刃向かう支那の暴虐と宣伝するものです。物心ついてこのかた、この考え方以外の思考が生まれる余地はありませんでした。ものを知っている人はアメリカの強さを承知して、これは大変と思ったそうですが、信仰にどっぷりついていた庶民の私には、「これで石油の心配がなくなるのかな」程度のことしかありませんでした。

住谷 秀次 (代田4丁目)

NHK テレビ「坂の上の雲」の放映に思う

11月から、今年の年末で5回、来年と再来年の3年がかりで、全13回の予定で、NHKが司馬遼太郎原作の「坂の上の雲」をドラマ化して放映します。すでにご覧になった方もおられると思います。

いろいろなところで話題を呼んでいます。11月27日付の毎日新聞夕刊も「露中仏英でもロケ けた外れの大作」として紹介しています。この記事の中に気になる事が書いてあります。「司馬の作品の多くがドラマとなっている。だが司馬は「坂の上の雲」については映像化の申し出を断っていた。「戦争賛美と誤解されると思っておられた。(略)」西村…プロデューサーはそう振り返る。

なぜ、このように、原作者から「断られていた作品」をあえてドラマ化して、この時期に放映をするのか。考えてみたいものです。

伊東 宏 (代田2丁目)

参考になる本：「司馬遼太郎「坂の上の雲」 なぜ映像化を拒んだか」 牧俊太郎 (近代文藝社)

集会等の紹介

2010年1月24日(日) 14:00~16:030

新年ビデオ映写会 「ビルマの豎琴」

代沢東地区会館 2階 会議室

連絡先 代沢九条の会

代田・九条の会の、2010年の予定

事務局会議で、検討をしています。ご提案・ご意見などをお寄せください。案として、

- 2月 学習会 : 国民投票法について
- 4月末~5月初 憲法記念日のつどい
- 8月 終戦記念日に向けて、映画会
- 11月 2周年記念のつどい

~ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ~

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

九条の会東京連絡会が、結成1周年を記念して、この10月に1つめの集いを、11月に2つめの集いを開きました。

「『生き生き憲法』98歳からのメッセージ」に参加して

小雨の降る肌寒い10月24日の午後、九条の会東京連絡会1周年・1つめのつどいが日本教育会館で開催されました。

特別講演に立たれた聖路加国際病院理事長の日野原重明先生は『『生き生き憲法』98歳からのメッセージ』と題してお話をされました。98歳とは思えないしっかりとした声で、政権交代になったが、民主党も9条に関しては自民党と同じであり、国民投票法が実施される時にNOと言える同志を増すことが重要で、九条の会が急上昇しないと……。自分の国を守るには、武器を捨てることによって守られる。自衛隊を無くして救急隊にしたらと、軍隊を持たないコスタリカの例を引いて話されました。

又、「いのち、時間、平和」について、いろいろな例を引いて話され、いのち(Life)とは、目に見えないが人間にとって一番大切なもの。それは自分がもっている自分の時間。与えられた遺伝子・環境をどう活かすか。最後に「良き友をもって、ビジョンに向かって勇気を持って共に前進しよう。世界平和のために」と力強く結ばれました。

続いて劇団民芸俳優の日色ともえさんが、ご自身が歩んできた経緯に触れて挨拶し、花森安治作「戦場」の詩を心を込めて朗読し、会場は大きな拍手に包まれました。

2周年は、東京に800余ある九条の会が、企画を持ち寄って大田産業プラザに集まろうと提起がされました。
小澤 清子(代田5丁目)

九条の会・東京連絡会 1周年2つめのつどいに参加して

蓮池 透さんが、九条の会で講演する！という驚きのもと、一度話しを聞いてみたいとの思いで参加しました。「拉致問題の解決の道と9条」と題しお話を下さいました。

「5人生存、8人死亡」で拉致問題を決着し、日朝国交正常化したかった政府の思惑、帰国した被害者が、支援法により「税金で生活しているのに」という周囲からの圧力で、生活が制限されている現実。蓮池 透氏が「制裁でなく対話も必要」と表明した途端に受けたバッシングなど驚く話が多くありました。この間、5人と家族が帰ってきてから進展のない中で、相手が動くのを待つのではなく、日本政府から動き、なんとしても全員の帰国を勝ち取りたいという強い思いを受け止めました。

他に、マスコミ9条の会の桂 敬一さんの講演「東アジア共同体と9条の新しい意義」、きたがわてつさんの歌「日本国憲法前文」、頼もしい大学生・高校生の発言など有意義な集会でした。

萱野 幸子(代田4丁目)

混声合唱組曲「レクイエムいのちこそ」 CD化されました

池辺晋一郎さん作曲・松原混声合唱団演奏の、日本国憲法前文と第9条が歌詞になっている、「レクイエムいのちこそ」がCDになりました。2月の世田谷・九条の会4周年記念の集いで演奏され会場に大きな感動を与えました。

1枚800円です。ご希望の方は 小澤 まで



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

日本国憲法

- 第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない